

構造設計で財産と命を守り 働きやすい環境で社員を守る

株式会社 濱川構造設計

代表取締役

濱川 勝己

Hamakawa Katsumi

安全な建物で財産と命を守る 建築構造設計の使命

— 貴社の事業概要を教えてください。

鉄筋コンクリート造と鉄骨造の戸建て住宅や集合住宅、商業施設、病院などあらゆるニーズに対応した建築物の構造設計を行っています。建築設計は、建物の外観や内部空間の間取りをデザインする意匠設計、電気配線や空調といった建物内で快適に過ごすための各種設備を計画する設備設計、地震や台風などの自然災害にも耐えられるように建物の骨組みを計画する構造設計、これら三つの分野に分けられています。どんなに美しいデザインの建物でも、構造がしっかりしていなければ災害時に人の命を守ることはできません。安全な建物を作るため、使用するコンクリートや鉄骨など部材の強度や耐震性を数値で判断しながら構造設計をする

のが私たちの仕事です。建物の安全性の確保、居住性の確保、経済性の確保を図り、どうすれば合理的かつ経済的な構造設計が可能になるか、常に思考し、創意工夫しています。

一昔前は一人の建築士が全ての設計を担っていましたが、建物の高性能化や高層化に伴い各分野でより専門性が求められるようになり、分業したチームで力を合わせて建物を造るという流れに変わりました。構造設計の仕事は目立たず地味な印象ですが、地震や災害時にも倒壊せずに人々の命を守る建物を作り、何十年もそこに建ち続けさせるという使命が、私たちの誇りとやりがいの源になっています。

— どのような経緯で創業されましたか？

琉球大学の建設工学科を卒業し、県内の建築設計事務所に就職しました。大学の授業で初めて建物の

デザイン以外に建築物の骨組みや耐震性、安全性を設計する仕事があることを知り、面白いと思ったのが構造設計の道に進んだきっかけです。自分が得意としている数学や物理学を生かせる仕事はこれだ!と思うことができました。就職した会社でも構造部門に配属され、そこで12年間経験を積みました。先輩方に教えていただきながらいくつもの建物を担当し、構造設計士としてのキャリアを築くことができたが、当時の労働環境はとても過酷でした。建築設計業界はどこもそうだったと思うのですが、毎日夜の12時近くまで残業するのが当たり前前の生活が続き、その結果、体を壊してしまったのです。そのためやむなく退職し、2年間療養しました。体調が回復し仕事を再開しようと考えたとき、会社勤めに戻ることに抵抗があったので、2008年に個人事務所として濱川構造設計を設立しました。少しずつ依頼が

災害時に崩壊しない
財産と命を守る建物を
設計することが
私たちの誇りとやりがい

経営方針は
「何事にも誠実に対応する」

社員が安心して
長く働ける職場づくりを重視

増え、一緒に仕事したいと言ってくれる仲間もできたので、2014年に2人の設計士と経理担当の妻が加わり、株式会社 濱川構造設計に法人化しました。その後も順調に社員が増え、当初の事務所が手狭になったので思い切って土地を買い、自社ビルを建てて今の場所に移転したのが2018年です。現在は設計スタッフ7人を中心とした計10人の社員が在籍する会社となりました。

お客さまにも社員にも 誠実であるために

— 経営において大切にしていることは？

「何事にも誠実に対応する」というのが基本方針です。技術力も当

然重要ですが、同業の他社と比べたときに当社の特長は「誠実さ」でありたいと思い、これまで人間関係を大切にし信頼第一でやってきました。具体的には、依頼先の要望にはなるべく応えることです。設計途中の変更はよくあることですが、期限が迫っている中でも迅速に対応することを心がけています。また、意匠設計事務所に比べて構造設計事務所は少ない上、設計スタッフが1～2人という事務所が多く、すぐに手一杯になってしまいます。他社で引き受けてもらえず納期が迫った依頼が回ってきても、なるべく請け負うことにしています。当社には設計スタッフが7人いるので、大幅な変更や急な依頼でも内部工程を調整し、対応することができます。

濱川 勝己 PROFILE

1962年、那覇市出身。得意とする数学や物理学に携わりたく、琉球大学建設工学科に進学。大学の授業で構造の分野を知り、それからは構造一筋。構造研究室で学び、卒業後は県内の建築設計事務所の構造部門に就職。過労により体を壊したが休養期間を経て、個人事務所開設で社会復帰を果たす。自身の経験から、社員が安心して長く働ける環境づくりを追求している。

趣味

寺社巡り。休日に夫婦で神社やお寺に出向き、気持ちを休める。

好きな言葉

「諸行無常」
全ての物事は常に変化し、決して同じままでいられない、という仏教の教え。明日どうなるか分からないからこそ、今この瞬間を大切に、一生懸命生きようと思う。



南風原町にある老人福祉施設
意匠設計：山口瞬太郎建築設計事務所、撮影：鳥村綱一



社内研修風景

書家が贈ってくれたという書は、いつも目に留まる場所に掲示



グラン・エス・キタナカ
意匠設計：山口瞬太郎建築設計事務所、撮影：小浜恵一

CORPORATE DATA

社名	株式会社 濱川構造設計
代表者	濱川 勝己
資本金	600万円
事業内容	建築物に関する設計・工事監理、建築物等の構造設計、建築に関する法令の規定に基づく手続の代理業
取引店	新都心支店真嘉比出張所

このように厳しい条件の依頼も請け負ってきましたが、会社の規模が大きくなると利益も重視しなければなりません。取引先に誠実な対応を続けるためにも、設計料を適切な金額に見直す時期だと考え、2024年値上げに踏み切りました。利益を確保して社員の待遇を改善し、ミスなく丁寧な仕事を提供することが会社としての責任だと考えてのことです。全取引先に設計料の値上げをご説明したところ、ほとんどの会社が理解してくださり、変わらぬ取引が続いています。金額だけの判断で他社に依頼する会社があっても、それは仕方のないことです。これまでの実績と関係性には自信がありますので、これからも信頼でつながっているご縁を大切に、誠実にお応えしたいと思います。

—— 社員教育のため行っていることはありますか？

社員には、技術力を磨くだけでなく仕事を通して人としても成長し自律した社会人になってほしいです。

そのため、業務に直結する研修ではなく自己成長を目的とした研修を導入しています。毎月1回講師を招いての研修を1年ほど続けています。会社を成長させるにはどうしたらいいか、ということを社員自ら考えるようになったと感じています。社員同士で話し合い、要望や提案を私に提言することもあります。研修前にはなかったことなので、この変化は嬉しいですね。いずれはこの会社を引っ張る立場になってくれたり、力をつけて独立したりと、どんな形でも社員が自律することを願い成長を見守りたいと思います。

自律心を育てる一環として、決算書も公開しています。会社の売上、人件費、経費、利益などを説明し、社員の疑問や質問にも答えているので、経営に対しての理解や納得感が深まっているようです。一人一人が自分の仕事でどれくらいの利益を生み出すのかを考え、業務の効率化を図るようになりました。夏と冬のボーナスとは別に決算賞与も支給しているので、利益を出せば

還元される、頑張った分報酬がもらえる、という意識がより根付いてきたと思います。自分で自分の給料を稼ぐ意識で、やりがいや張り合いを持って仕事を楽しんでほしいです。

—— 働く環境も意識されていると伺いましたが、具体的な取り組みを教えてください。

会社を設立したときから社員が働きやすい環境を整えることを重視しています。例えば、腰の負担を減らす昇降式デスクを使用し、立ったり座ったりと姿勢を変えることで、体のコリの予防や改善につなげています。また、午前と午後の仕事途中に5分間の体操の時間を設け、全員で体を動かしています。個別でフィットネスジムなどに通っている場合は、会費の半額を会社が負担しています。また、厚生労働省の労災だけでなく民間の任意労災にも加入しています。任意労災は補償の範囲も広く対応も早いので、いざというときには助かっています。

働く時間に関しては、1時間単位

で有給休暇が利用できる時間休制度を取り入れています。結構便利らしく、昼休み前後に1～2時間休んで市役所や歯医者に行ったりと、みんな上手に活用していますね。あと、意識しているのは整理整頓です。周りが雑然しているとミスが起こりやすくなります。職場環境は仕事の結果につながりますから、ミスをなくすためにも身の回りは常にキレイにしています。私が率先して片付けているので、社員も自然に整理整頓するようになりました。すっきり片付いていると、気持ちよく仕事もはかどりますよね。心身の健康を保ち、快適に、安心して社員が働ける環境づくりに力を入れています。

構造技術者を育成し 次世代に会社をつなぎたい

—— 社長ご自身の使命は何だと思えますか？

建物の構造設計を行う構造技術者を育てるのが私の社会的な役目と考えています。しかし、アナログ

時代の人間なもので、私が教えられることには限界があります。構造設計は法改正が重ねられ、技術やツールがどんどん進化しています。新しい知識や技術をどう教えていくかが課題です。解決策の一つとして、2024年から建築士の資格取得などを支援する資格スクールと提携し、ビデオ受講システムを導入しました。構造計算や構造設計に関する講義がいつでも何度でも受講できるので、社員が自分のペースに合わせて学べるようになります。このシステムを活用することで新人の育成も可能となるため、2025年度は数年ぶりに2人の新卒者を採用しました。これまでは実務経験者を中心に採用していましたが、一から若手を育てることも積極的に取り組む所存です。

—— 今後の展望について教えてください。

個人事務所の設立から今年で17年目、法人化からは11年目になります。せっかくここまで育ててきた会社なので、次の人にバトンタッチし

会社を存続させたいと考えています。そのためには、さらなる技術力の向上と、事業承継の準備を同時に進める必要があります。まず、技術力に関しては、実力のある構造設計事務所と共同案件に取り組むことを考えています。また、案件によっては経験豊富な構造技術者をアドバイザーとして招くことも検討しています。外部の力を借りることも考え、技術力に磨きをかけたいと思います。事業承継に関しては具体的にはまだ何も決まっていないので、そろそろ情報を集めて準備しないとイケないと思っています。現在63歳なので70歳までに引き継ぐためにはもう動き出す時期です。従業員承継や外部人材の登用などあらゆる可能性を検討していきます。

まだまだ発展途上の会社ですが、一つ一つ誠実に丁寧に取り組み、社員が安心して長く働ける職場づくりを大切にしながら、社会や地域に貢献できる構造設計事務所として、これからも一歩ずつ成長して行きたいと思っています。